



警告のニューズレター「角笛」

発行日：2017年5月発行（第85号）

発行：警告の角笛出版

価格：フリーペーパー

角笛 HP: <http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

【目次】

- ◎巻頭メッセージ：「知恵ある者の知恵は滅び、悟りある者の悟りは隠される」 エレミヤ
- ◎時代を悟る：「北のイスラエル・南のユダとエキュメニカル」 H.F
- ◎お知らせコーナー 「本の紹介」

[巻頭メッセージ]

「知恵ある者の知恵は滅び、悟りある者の悟りは隠される」 by エレミヤ

本日は「知恵ある者の知恵は滅び、悟りある者の悟りは隠される」という題でメッセージしたいと思います。

テキストはイザヤ29：9～14節です。終末の日の背教の教会においては、「知恵ある者の知恵は滅び、悟りある者の悟りは隠される」ことを見ていきたいと思うのです。テキストに沿って見ていきましょう。

イザヤ 29:9 のろくなれ。驚け。目を堅くつぶって見えなくなれ。彼らは酔うが、ぶどう酒によるのではない。ふらつくが、強い酒によるのではない。

29:10 主が、あなたがたの上に深い眠りの霊を注ぎ、あなたがたの目、預言者たちを閉じ、あなたがたの頭、先見者たちをおおわれたから。

終末の日の大きな特徴は、預言者や頭、先見者の目が覆われ、見えなくなることです。ここに預言者と書かれています。旧約の預言者は、今の教会時代では教師に相当します。以下のことばの通りです。

2ペテロ2：11 しかし、イスラエルの中には、にせ預言者も出ました。同じように、あなたがたの中にも、にせ教師が現われるようになります。彼らは、滅びをもたらす異端をひそかに持ち込み、自分たちを買い取ってくださった主を否定するようなことさえして、自分たちの身にすみやかな滅びを招いています。

「頭」とは要するに教会のトップの人々のことであり、教会の指導者、リーダーのことです。また「先見者」とは、人より先にものごとを見通す人々というニュアンスがあります。すなわち、時代や、教会を見分け、良い意見を述べる教会のアドバイザー、助言者の類の人々のことです。終末の日には、そのような人々の目が覆われ、見えなくなることがここには書かれています。すなわち、教会の教師も牧師も、リーダーもアドバイザーも皆その目が見えなくなり、真理が見えなくなる日が来ることが預言されているのです。

「知恵ある者の知恵は滅び、悟りある者の悟りは隠される」エレミヤ

さて、何故これらの人々はみな、目が覆われてしまったのでしょうか？そのことに関連して、「彼らは酔うが、ぶどう酒によるのではない。ふらつくが、強い酒によるのではない。」として酒やぶどう酒に関して書かれています。聖書では、酒やぶどう酒は、霊的なことのたとえです。ですから、すなわち、惑わしの霊に惑わされ、誰も彼も見えなくなってしまう日が来るのがここでは書かれているのです。

参考までに、多くの預言者が、惑わしの霊に惑わされ、みな、同じ方向に惑わされてしまったことが旧約聖書の中に書かれています。以下の箇所です。

1列22:19 すると、ミカヤは言った。「それゆえ主のことばを聞きなさい。私は主が御座にすわり、天の万軍がその右左に立っているのを見ました。

22:20 そのとき、主は仰せられました。『だれか、アハブを惑わして、攻め上らせ、ラモテ・ギルアデで倒れさせる者はいないか。』すると、あれこれと答えがありました。

22:21 それからひとりの霊が進み出て、主の前に立ち、『この私が彼を惑わします。』と言いますと、主が彼に『どういうふうにするのか。』と尋ねられました。

22:22 彼は答えました。『私が出て行き、彼のすべての預言者の口で偽りを言う霊となります。』すると、『あなたはきっと惑わすことができよう。出て行って、そのとおりにせよ。』と仰せられました。

22:23 今、ご覧のとおり、主はここにいるあなたのすべての預言者の口に偽りを言う霊を授けられました。主はあなたに下るわざわいを告げられたのです。」

この時の多くの預言者、400人もの預言者が皆、惑わしの霊に覆われ、真実が見えなくなり、王に対して偽りの預言を語りました。

「ラモテ・ギルアデに攻め上って勝利を得なさい。主は王の手にこれを渡されます。」として、王に対して良い預言を語ったのです。そして王であるアハブは、これらの預言を頼りに戦いに出て行くのですが、結果は彼の死をもって終わりました。彼は、惑わされた預言者の声を採用して自らの命を失ったのです。

このことは主イエスの初降臨の日にも再現しました。その日、イスラエルの教師や祭司、律法学者、パリサイ人などの目はみな、惑わしの霊によって覆われていたのですが、彼らはそれに気が付きませんでした。彼らは自分が盲目であり、目が曇らされていることに気がつかなかったのです。以下の会話を思い出してください。

ヨハネ9:39 そこで、イエスは言われた。「わたしはさばきのためにこの世に来ました。それは、目の見えない者が見えるようになり、見える者が盲目となるためです。」

9:40 パリサイ人の中でイエスとともにいた人々が、このことを聞いて、イエスに言った。「私たちも盲目なのですか。」

9:41 イエスは彼らに言われた。「もしあなたがたが盲目であったなら、あなたがたに罪はなかったでしょう。しかし、あなたがたは今、『私たちは目が見える。』と言っています。あなたがたの罪は残るのです。」

彼らの目は見えていなかったのですが、彼らはそれに気が付きませんでした。その結果、彼らは盲目になり、ついには救い主を自らの手で殺すようになったのです。同じようなことがこの終末の背教の時代に起きようとしています。

29:11 そこで、あなたがたにとっては、すべての幻が、封じられた書物のことばのようになった。これを、読み書きのできる人に渡して、「どうぞ、これを読んでください。」と言っても

「知恵ある者の知恵は滅び、悟りある者の悟りは隠される」エレミヤ

「これは、封じられているから読めない。」
と言い、

29:12 また、その書物を、読み書きのできない人に渡して、「どうぞ、これを読んでください。」と言っても、「私は、読み書きができない。」と答えよう。

主イエスが初降臨した時代は、まさに背教の時代です。その結果、この時代の人々にとり聖書の預言のことばは、まさに「封じられた書物のことばのよう」でした。それは読み書きのできる人、すなわち聖書や律法の専門家である律法学者やパリサイ人にとっても封じられており、封印され読めない書物となっていたのです。

彼らは確かに旧約聖書を手に持っていました。そこには、メシヤ到来の預言を記すダニエル書や、また、キリストの来臨に関して語る詩篇も、イザヤ書も、またマラキ書も全ての書がそろっていたのです。

ダニエル書の70週の預言は、油注がれた者、すなわち、キリストが、いつ到来するかその時を正確に預言しています。そして、キリストはその預言どおりの時に出現したのですが、彼らはそのキリストを目の前にしても彼をメシヤであると悟りませんでした。彼らにとっては、多くの預言書は何の役にも立たず、彼らの聖書の学びも全く役には立たなかったのです。

このことを一体何と呼ぶべきでしょう？これこそ「封印が開かれていない」ということであり、「預言を悟らない」ということなのです。そうです、彼らにはダニエル書の封印は開かれなかったのです。”これを、読み書きのできる人に渡して、「どうぞ、これを読んでください。」と言っても、「これは、封じられているから読めない。」と言い”と書かれている通りです。このこと、封印が封じられることに関連してダニエル書はこう語ります。

ダニエル12:9 彼は言った。「ダニエルよ。行け。このことばは、終わりの時まで、秘められ、封じられているからだ。

12:10 多くの者は、身を清め、白くし、こうして練られる。悪者どもは悪を行ない、ひとりも悟る者がいない。しかし、思慮深い人々は悟る。

ここでは、未来に関する預言の言葉は封じられていること、そしてその封印は誰に対しても開かれる、というわけではないことが書かれています。逆に「悪者どもは悪を行ない、ひとりも悟る者がいない。」とのことばのように、悪者にはその封印が開かれず、彼らの誰一人悟ることがないことが描かれているのです。

このこと、封印が開かれず、悟るものがない、ということはキリストの初降臨の日に成就しました。キリストの生涯においては、300以上の旧約聖書の予言が成就しているとのことです。そのことを目の前で見ながら、聖書の専門家であるはずの、パリサイ人や、律法学者は、このイエスがキリストであることを悟りませんでした。



多くの人々は、ナザレのイエスをキリストと悟れなかった

「知恵ある者の知恵は滅び、悟りある者の悟りは隠される」エレミヤ

彼らこそ神の前に悪者であり、彼らにとり聖書の預言は封印されたものであり、封じられた書物の様なものだったのです。

ダニエル書の預言の封印は、まるで、試金石のように、または入学試験のテストの様に彼ら悪者のよりわけや、区分のために用いられました。そして、みごとに悪者を排除してしまっただけです。すなわち、外側は白く塗られた墓の様にきれいに見えても、その内側はあらゆる貪欲や罪にまみれた偽善的なパリサイ人や、律法学者をよりわけてしまっただけです。

＜キリストの再臨の日にも封印は封じられたままになる＞

さて、主の初降臨の日に起きたことは再臨の日にも再現すると思われまします。すなわち、再び封印が封じられる日が来ると理解できるのです。教会時代の終わり、終末の日を預言している黙示録もまた封印された書です。以下の様に書かれています。

黙示録5:1 また、私は、御座にすわっておられる方の右の手に巻き物があるのを見た。それは内側にも外側にも文字が書きしるされ、七つの封印で封じられていた。

黙示録もまた封印された書であることがここでは書かれています。そしてこの書が封印された書である、その理由もダニエル書と同じです。すなわち、終末の時代の教会の教師やリーダー、クリスチャン達を区分、試験するためにこの封印は用いられるのです。そして、教会時代の終わりにおいても「悪者どもは悪を行ない、ひとりも悟る者がいない。」とのことばは成就します。

すなわち、それがたとえどれほど学識のある神学者であろうとも、はたまた、キリスト教会で大人気の牧師であろうとなかろうと、

その人が主の前に「悪者」とみなされ、偽善者とみなされたのなら、彼の前に決して封印は開かれることがないのです。

そして今の時代はまさにそのような時代、封じられたままの封印の開かれない、時代であることを知るべきです。たとえば、ある種のクリスチャンは、艱難の前にクリスチャンが携挙される、との聖書にもない妄想話を語ります。また、ある人々はEJこそ、獣の国である、などと的外れなことを語ります。彼らには何一つ封印が開かれていないことは明白です。

29:13 そこで主は仰せられた。「この民は口先で近づき、くちびるでわたしをあがめるが、その心はわたしから遠く離れている。彼らがわたしを恐れるのは、人間の命令を教え込まれてのことにすぎない。

29:14 それゆえ、見よ、わたしはこの民に再び不思議なこと、驚き怪しむべきことをする。この民の知恵ある者の知恵は滅び、悟りある者の悟りは隠される。」

「わたしはこの民に再び不思議なこと、驚き怪しむべきことをする。」とのことばを考えてみましょう。このことばは、キリストの初降臨の日に成就しました。

この時のキリストの来臨は驚くべき方法、人々の意表をつき、想像を絶する方法で行われました。何が驚くべきことなのか？すなわち、こういうことです。

1. 旧約聖書には、キリスト来臨に伴う300以上の預言が前もって記されている。
2. イエスキリストはその生涯において、その全ての預言を成就している。
3. 聖書の専門家であるはずの偽善の律法学者やパリサイ人はそのイエスを目の前にしながら、誰一人、彼をキリストであると悟らなかつた。

「知恵ある者の知恵は滅び、悟りある者の悟りは隠される」エレミヤ

神は意図的に、彼等偽善者たちを出し抜くことを意図しており、その通りにものごとは進んだのです。キリストの初降臨というできごとを通して、多くの悪者や偽善者はみな、より分けられてしまい、彼らは皆一掃されてしまったのです。

神の用いたより分けの方法：その一つは、ナザレのイエスという方法です。「キリストはベツレヘムで生まれる」との聖書知識を持っている人々は、その知識が災いとなり、ナザレ出身のイエスを正しく悟ることができなかつたのです。結果、知恵がある、悟りがある、聖書の知識がある、と自称している、しかし、偽善的な歩みをしている人々は残らず、ふるいわけられ、区分されてしまったのです。驚くべき神のよりわけの方法であり、区分の方法です。

さて、初降臨の日に起きたことはまた、再臨の日に起きることの予表です。同じことが再臨の日に再現する可能性が高いのです。再度、「わたしはこの民に再び不思議なこと、驚き怪しむべきことをする。この民の知恵ある者の知恵は滅び、悟りある者の悟りは隠される。」とのことばが成就するようになるでしょう。

その日には、今キリスト教会の知恵あるもの、また悟りあるもの、といわれている人々の思惑や予想はみな覆されるようになるでしょう。彼らの終末に関する説明やストーリーはみな、的外れなものとなり、思いもかけない方法で終末の預言は成就するようになるでしょう。

何故そうなるのか？その理由は、封印ということの意味合いです。書物の封印は家にかけられた鍵に似ています。我々が家のドアに鍵をかけるその目的は、見知らぬ人が自分の家に入ることを阻止するためです。自分の身内の家族だけには、鍵を渡し、そして、それ以外の他人やら、泥棒やら、悪人やらには鍵を与えません。他人には自由に家に入らせな

いたため、その区分のために家に鍵をつけるのです。封印の意味合いも同じであり、それは、悪人と真に主に従っている人々とを区分するために与えられているのです。同じ意味合いで、神が終末の預言を封印したその理由は「全ての人に終末の預言を開く」ためでは決してないことを知るべきです。そうではなく、主は終末の日に悪者すなわち、罪や偽善的な歩みをするクリスチャンを一掃することを計画しており、その目的のためにこの書を封印されたのです。このことを悟るべきです。

終末の日に再び、神は「再び不思議なこと、驚き怪しむべきことをする」でしょう。罪の歩みをする偽善的な教師、牧師、神父、クリスチャンの思惑や予想を超えた方法、思いもかけない方法で終末の預言は成就するようになるでしょう。

終末に関する多くのクリスチャンの予想は覆されるようになるでしょう。すなわち、終末の獣の国はEUではなく、またキリストは艱難の前には再臨しません。また、宮の崩壊と第3神殿とは関係がありません。また1週の契約とは7年の中東和平条約などではありません。私たちは歩みをただし、神を恐れた歩みに入るべきです。かつての日、神を真に恐れた歩みをしていた、ペテロを始めとした12弟子たちは、正しく聖書を悟り、目の前のイエスを来るべきキリストである、と悟りました。同じように、終末に日においても、真に主を恐れる人はこの終末の預言を悟り真理を見ることを知りましょう。—以上—



終末の獣の国に関する封印はまだ開かれていない

伝道 1：9～10

昔あったものは、これからもあり、昔起こったことは、これからも起こる。日の下には新しいものは一つもない。

「これを見よ。これは新しい」と言われるものがあったとしても、それは、私たちよりはるか先の時代に、すでにあったものだ。

昔あったことは、これからもあり、新しいことは何もなく、繰り返すと伝道者の書にあります。そして旧約は新約の型であるというなら、今現在のことは全く別物と考えてよいのでしょうか。

旧約の出来事また新約の出来事も同じく、今現在の型であると考えてるのが順当ではないのでしょうか。黙示録には、バビロン、ソドム・エジプトと呼ばれる都、という旧約の都の名が書かれています。今現在のこと、将来おこることも、旧約と新約聖書の出来事と同じ流れの中にあると捉えるべきです。

旧約の時代、神の民イスラエル12部族は北のイスラエルと南のユダの2つに分かれました。南のユダはダビデ王朝を継ぐ国でしたが2部族で小さく、北イスラエルは10部族で大きくイスラエルという名前を名乗ってはいました。しかし北イスラエル王は正当なダビデの血統ではなく、その信仰もヤロブアム王の偶像礼拝であり異教的でした。長く2国は対立していましたが、ユダは北イスラエルと縁をむすび、王同士が血縁になりおかしな教えが、北イスラエルからユダに入り込みました。そして南のユダは北イスラエルと縁を結ぶことにより信仰が崩れ去りました。

第二列王記8章にユダの王ヨシャパテの子ヨラムが王になり18節で「彼はアハブの家の者がしたように、イスラエルの王たちの道に歩んだ。アハブの娘が彼の妻であったからである。彼は、主の目の前に悪をおこなった・・・」とあります。背教により北のイスラエルがアッシリアに征服されたように、南

のユダもまたバビロンに捕囚されるのです。

「昔あったものは、これからもあり、昔起こったことは、これからも起こる。」ならば、北と南の2国に起こった事は、今の事として考えるべきでしょう。神の民は姉が北イスラエル、妹が南のユダ、と姉妹に喩えられています。聖書には多くのたとえが使われています。

詩編78：2「わたしは、口を開いて、たとえ話を語り、昔からのなぞを物語ろう」とあるように、神はたとえや謎で語られるとあります。また、イエスはたとえによらなければ語られなかったとあります。聖書のたとえや謎が、御霊により解き明かされて初めて真実が見えてくるのではないのでしょうか。

旧約の神の民が南のユダと北のイスラエルなら、今の神の民、新約のイスラエルはキリスト者です。そうであるなら2国は現在カトリックとプロテスタントのことを指しており、姉である北イスラエルはカトリック、妹の南のユダはプロテスタントであるのとらえるのは自然ことではないのでしょうか。

姉カトリックの人口はプロテスタントより多く、力があります。しかしカトリックの信仰は、聖書的ではありません。マリアを共同の贖い主というマリア信仰、これはどんなに理屈を言っても完全に聖書の御言葉に反しています。神の前において、カトリックのマリアに対する祈りは完全に偶像礼拝です。また地獄はないという教え、煉獄、進化論は正しいというローマ法王。聖書の言葉よりも法王の方が正しいという姿勢。聖書的ではない教えがカトリックには蔓延しています。第二列王記12章で北イスラエルのヤロブアム王が、自分勝手な偶像礼拝を始めたことが記されています。まさに姉カトリックは旧約の北イスラエルの的です。

時代を悟る：「北のイスラエル・南のユダとエキュメニカル」 H.F

妹プロテスタントは、1517年にルターにより宗教改革が起こり、カトリックの異教的信仰から袂を分かちました。そして長くカトリックに反対していました。それにも関わらず500年たった今、またカトリックとの合同を模索しているのです。

現在、世界的にエキュメニカル運動が盛んになり互いの相互理解の交流をするようになっていきます。例えば、ドイツの福音主義教会(EKD)はローマ法王を招き3月に合同式典、イギリスの英国国教会も宗教改革でカトリックと合同声明。

プロテスタント教会の中心であるアメリカで同様です。昨年ワシントンDCでローマ法王を迎えたエキュメニカルな音楽祭にプロテスタントのリーダーたちが多く参加しています。またアメリカで最も影響力のある牧師、リック・ウォレンもローマ法王と交流を深めています。

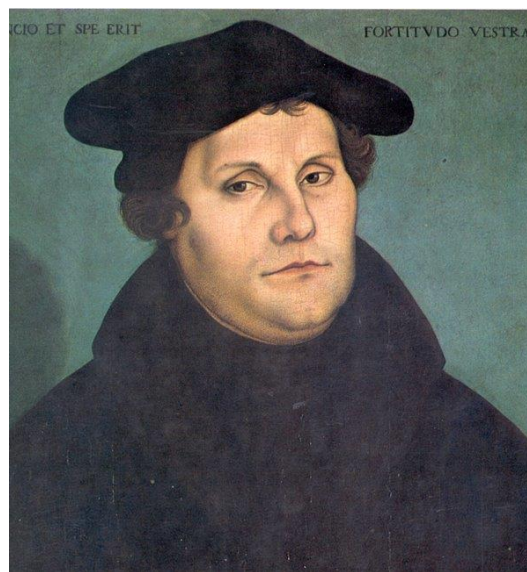
日本でもカトリック教会に牧師が説教に行くなど、多くの交流があります。宗教改革は必要であったのか、という論議をしている教派もあります。なにより聖書においてもカトリックと共同で訳した新共同訳が日本の多くの教会で用いられています。肅々とエキュメニカルは進んでいます。

エキュメニカルを進める人々が言う「対決から交わりへ」はとてもよく見えます。対決や争いは良くない、互いに違いを認め合うこと。人道的な寛容というものは平和的に見えます。しかし、カトリックはイスラム教ユダヤ教仏教ヒンズー教などほかの宗教との合同も模索しています。真理は聖書のみではないという姿勢です。

人道的な宗教間の対話は寛容で一見よいものに見えますが、神の真理はどこに行ったのでしょうか。神の言葉よりも、ヒューマニズムなののでしょうか。そしてプロテスタントもカトリックの流れに同調しようとしているので

す。対立は良くないので寛容さと相互理解を、とあいまいな和解を模索しています。しかし、聖書の真理の言葉に忠実になるなら、おかしなものとの対立は当たり前のことでしょう。神の言葉をないがしろにすること、それに同意することは神様の前に正しいと言えるのでしょうか。

今現在起こっているエキュメニカル運動、プロテスタントのカトリックとの合同は、かつて北イスラエルと縁を結び異教を取り入れた南のユダ国と同じでしょう。北イスラエルと縁を結んだユダ国と同じ轍をふんでいるのです。旧約時代、南のユダが背教のゆえに神の怒りを受けたのと同じ道を歩んでいるのです。このままであるなら、南のユダがバビロンに捕囚されたように、神の国である教会が背教により崩壊していくこととなります。このことを聖書から学ばなければなりません。喩えを理解し奥義を悟り、時代を見極めることが大事なのです。—以上—



カトリックの誤りを指摘したマルチン・ルター

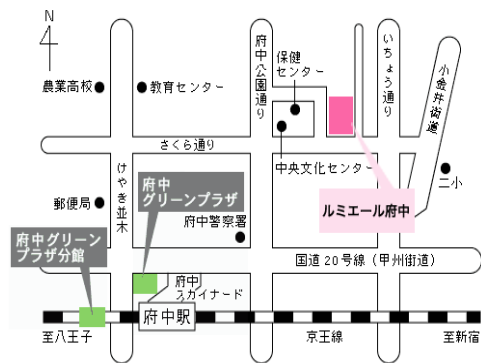
●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」



定価:¥1,500+消費税 ※注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。
 警告の角笛出版 tel:042-364-2327 fax:020-4623-5255
 mail:truth216@nifty.com

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日 午前 10:30-12:30
 午後 14:00-16:00
 場所:東京都京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館
 (tel:042-360-3311)
 1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、
 「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。
 どなたでも来会歓迎、入場無料です。



礼拝場所のURL: http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html

★教会のHPもあります。
 ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。
 尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

- ★クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋
<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>
- ★クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風
<http://whattopics.at.webry.info/>
- ★クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス
<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>
- ★ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家
<http://87494333.at.webry.info/>